



平成27年度

北海道開発技術センター
調査研究等

(自主研究・自主プロジェクト・その他)

— 調査研究結果概要 —

平成28年4月

平成27年度 北海道開発技術センター 自主事業一覧

A. 自主研究

- 301モビリティ・マネジメントに関する調査研究(継続【名称変更】)
- 302 沿道の環境の保全、活用に関する調査研究事業(継続)
- 303 公共交通に関する調査研究(継続)
- 304 フットパス等に関する調査研究(継続)
- 305 福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究(継続)
- 306 「ふゆトピア都市」に関する調査研究(継続)
- 308 吹雪時の視認性に関する調査研究(継続)
- 309 積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究(継続)
- 311 エコ・コリドールに関する調査研究(継続)
- 312 エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究(継続)
- 313 土木史に関する調査研究
- 314 環境、エネルギーと社会資本整備に関する調査研究(継続)
- 316 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究(継続)
- 317 気候変動下における雪氷環境に関する調査研究(継続)
- 318 北海道の地域防災に関する調査研究(継続)
- 319北海道新幹線開業に向けた2次交通及び周遊観光に関する調査研究(新規)
- 320学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究(新規)
- 321北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズムに関する調査研究(新規)

B. 自主プロジェクト

- 421 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理(継続)
- 422 技術資料等のデータベース化に関する調査研究(継続)
- 423 「寒地開発技術委員会」の設置(継続)
- 424 インターンシップ制度(継続)
- 425沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業(継続【名称変更】)

D. その他(広報・普及啓発)

- 461 寒地技術シンポジウム
- 462 「野生生物と交通」研究発表会
- 463 地域政策研究セミナーの開催(年4回程度)
- 451 d e c マンスリー(年12回)・ホームページの更新

D. その他(国際交流)

- 471 日中冬期道路交通ワークショップ

301 モビリティ・マネジメントに関する調査研究(継続【名称変更】)

「日本モビリティ・マネジメント会議」(東京都)や土木学会土木計画学研究発表会、日本交通学会(八戸市)等に参加し、発表や情報交換・収集を実施する。

第10回日本モビリティ・マネジメント会議への参加

<開催概要>

■開催日： 2015年7月24日(金) - 25日(土)

■会場：

東京都文京区(東洋大学白山キャンパス：東京都文京区白山5-28-20)

■主催：

一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議

<dec関連発表>

- ・ 札幌市内全小学校への拡大的展開を見据えたMM教育の実践的取組み
- ・ 札幌都市圏における通勤MMの取組
- ・ 北見市における子供を対象としたバス利用促進イベントの開催



302 沿道の環境の保全、活用に関する調査研究事業（継続）

○道路沿道の景観保全や環境保全及びその活用に関する調査研究と住民
団体、地域団体の支援

シーニックバイウェイ北海道の各ルート地域住民や団体が行う景観、観光、地域づくり活動等への参加、事務局及び活動作業の支援を行っている（以下、今年度実施した事業の抜粋）。

- ・ 4月3日 100年の木プロジェクト総会参加
- ・ 5月11日 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表者会議参加
- ・ 5月25日 函館・大沼・噴火湾ルート代表者会議参加
- ・ 5月27日 十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間総会参加
- ・ 6月12日 支笏洞爺ニセコルート代表者会議参加
- ・ 6月13日 どうなん追分シーニックバイウェイ総会参加
- ・ 6月17日 大雪富良野ルート代表者会議参加
- ・ 6月22日 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ総会参加
- ・ 6月24日 萌える天北オロロンルート総会参加
- ・ 7月16日 層雲峡オホーツクシーニックバイウェイ総会参加
- ・ 7月27日 天塩川流域ミュージアムパークウェイ代表者会議参加



写真1 支笏洞爺ニセコルート代表者会議
ワークショップの様子(6月12日)



写真2 萌える天北オロロンルート総会の様子
(6月24日)

303 公共交通に関する調査研究

「第5回地域の交通環境対策推進者養成研修会」への参加

<開催概要>

- ・期日：2015年10月28日（木）9:30～30日（金）17:00
- ・場所：藤沢商工会館ミナパーク 他
- ・内容：講習会、全体見学会、情報交換会、政策課題検討会、全体討論会
- ・主催：EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、国土交通省関東運輸局

<全体討論会での発表資料の一部>

商業地（藤沢駅周辺）の交通マネジメント
～多様なモードの混在空間をどうするか？～

グループ①
コーディネータ：岡村先生
服部、小関、栗原、磯部、吉田

1. 地域の現状
(現地調査による課題・強みの抽出)

2. 将来ビジョン・コンセプトの設定

3. 目玉プロジェクト

4. 実現性を高めるための施策(案)

5. 今後の展開(効果的な活用方法案)



1. 地域の現状(現地調査による課題・強みの抽出)



1. 地域の現状(現地調査による課題・強みの抽出)

強み	課題
市街地の強み ・歴史と自然の魅力・資源多い ・交通結節点(鉄道3線) ・JR、小田急の乗り換え客多い(38万人) ・歩行者が多く賑わい	課題 駅広 歩行者空間デザイン ・解放感がない。 ・歩行者滞留スペースがない。 駅広 車両流動 ・車の渋滞。(荷崩き・タクシー) ・通過交通が多い。(一般車両)
敷地の制約 ・幅員困難(道路・駅広)	南北の行き来不便 ・車 ・自転車 ・歩行者

↓

ビジョンの構築 空間効率の向上・人と車の棲み分け

2. 将来ビジョン・コンセプトの設定



【北口】歴史文化のまち
北海道 藤沢宿

【南口】明るく解放感！
湘南江の島

3. 目玉プロジェクト

【プロジェクトの提案内容】

前提条件 小田急改札口の橋上化

ペDESTリアンデッキ平面化 + トランジットモールの複合

- JR・小田急 ⇄ 江ノ電のプラット化
- 交通モードの整序化
 - ・一般車両の流入規制
 - ・バス停集約とタクシー乗り場等の再配置による交通結節点機能強化
 - ・歩行者・自転車の通行空間の確保
 - ・荷崩きスペースの確保

4. 実現性を高めるための施策(案)

交通結節点機能強化	人の流れ、にぎわいの創出
1. ハスターミナルの再整備 ・バス、タクシー乗り場の再配置 ・バス停の集約	1. ブランドイメージ ・ミニ江の島 ・カラーの統一
2. 共同荷捌き場の整備	2. 上下移動の円滑化 ・エレベーター・エスカレーターの整備、階段の再配置
3. 既存パーキングメーター撤去 ・一般乗降場の再整備 ・駐輪場の整備	3. 歩行空間の確保 ・一般車両の排除(終日)
4. バス停の集約	

5. 今後の展開(効果的な活用方法案)

新ペDESTリアンデッキの活用例

湘南への玄関口
ミニ江の島設置・・・ミニチュア、海の音、足湯
ミニショップ・・・バラソルショップ、アンテナショップ
江ノ電・・・江ノ電実物車両展示
観光案内・・・江の島、遊行寺 等
観光客向けスライド
エリア紹介おみやげ、日焼けコンテスト

賑わいスペース
イベント開催・・・市民向け祭、商店会イベント、パフォーマー生演奏

滞在と交流
海の家・・・バラソル、ハンモック、ビーチチェア、海の音
エリア紹介・・・街の店舗紹介

304 フットパス等に関する調査研究（継続）

北海道版スイス・モビリティ研究会の開催

- 平成27年4月28日（火）に『（仮称）北海道版スイス・モビリティ研究会』を立ち上げ、自転車やカヌー、フットパス、公共交通を組み合わせた新たな観光地づくりを目指して、検討を行った。
- 高橋清教授を座長として、石狩川河川財団やツール・ド・北海道協会、エコネットワークなどの専門家、ヤマト運輸などの物流関係者、ハートランドフェリーやJR北海道、バス協会などの交通事業者、オブザーバーとして開発局、北海道などに参加頂いた。研究会は2回開催した。

道北スイス・モビリティの試走調査

- 平成27年8月（美深町～利尻島）・10月（幌加内町～中川町）に道北版のスイスモビリティ試走調査を行い、自転車の走行環境やに手荷物の郵送方法、地域の受入環境等について調査を行った。
- サイクルツーリズムの先進地「しまなみ海道」への視察を実施した。



図 道北スイス・モビリティの試走調査のようす



図 しまなみ海道視察のようす

全道フットパスの集い等フットパスイベントへの参加

- 平成27年7月4日（土）～5日（日）に開催された全道フットパスの集い in なんぼろに参加。
- 平成27年10月3日（土）～4日（日）に開催された沙流川フットパスツアーに参加。



図 チラシ

305 福祉交通やバリアフリーツーリズムに関する調査研究（継続）

日本福祉のまちづくり学会 北海道支部の活動支援

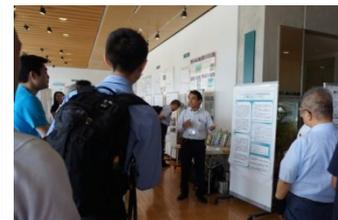
- 支部の運営の他、日本福祉のまちづくり学会全国大会（柏市）にて研究発表を行った。また、来年度の全国大会が函館地区での開催（平成28年8月5日～7日）が決定されたことから、支部内で北海道大会実行委員会を設立し、この活動の支援を行う。加えて、支部主催フォーラム（平成28年6月17日～18日）の準備・運営協力を行う。



→
第19回全国大会
(函館)の会場案
内チラシ



全国大会の様子 8月7日～9日開催(柏市)



函館バリアフリープロジェクトの活動支援

- NPO法人スプリングボードユニティ21（函館市、理事長 折谷久美子氏）とともに、函館バリアフリーボランティア実地訓練（平成28年3月5日）を開催した。

- 当事者: 3名(視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由者)
- 実施場所: 函館市内～北斗市内
- 調査内容: 観光施設のバリアフリー状況及び公共交通機関での移動等



実地訓練の様子

306 「ふゆトピア都市」に関する調査研究（継続）

ウインターライフ推進協議会（会長：高野伸栄北海道大学教授）、「北海道みまもりサポート研究会」、「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会（会長：小磯修二北海道大学特任教授）」（略称：ボラベーション研究会）において、調査研究、事務局運営等を実施した。

■ウインターライフ推進協議会への参画

○ウインターライフ推進協議会の事務局として活動に参画し、冬期転倒事故防止、安全な除雪作業、冬の健康づくり、冬の遊び・雪氷教育など、冬を安全・安心・快適に過ごすための普及啓発活動および関連する調査研究を実施。

【今年度の事業概要】

○調査研究成果の発表

- ・雪氷研究大会（H27年9月、松本）にて調査研究成果を発表。
「転倒による救急搬送集中日の特徴分析」／「除排雪民具に関する所蔵分布調査」
- ・転倒予防学会（H27年10月、京都）にて研究成果を発表
「冬期道路における自己転倒による救急搬送者の基礎分析」
- ・その他調査結果についても、ノルディック・ウォーク学会学術大会（10月）や寒地技術シンポジウム（11月）でも発表

○冬道転倒事故防止啓発サイト「転ばないコツおしえます。」による情報発信

- ・つるつる予報の発表（H27年12月～H28年3月）
- ・発信情報の充実に向けて、HP掲載情報のリニューアル作業に着手。

○除雪事故防止啓発サイト「除雪のコツおしえます。」による情報発信

北海道！除雪でケガをせず冬を安全で健康に暮らすための雪かき情報サイト
ウインターライフ推進協議会

ただいまの札幌の気象情報
2015年10月14日 水曜日 11時現在
気温：12℃
湿度：96% 風速：4m/s
降水確率：0mm 積雪深：0cm

札幌の雪かき指数
詳細はこちらをご覧ください
（札幌市ホームページ内）

facebook
ウインターライフ推進協議会
冬の生活を安全に暮らすために役立つ情報を発信しています。

NEWS
2015.2.2
除雪コラム：第3回「屋根の雪下ろしは本当に必要？」を公開。
2015.2.2
「除雪機による事故の実態」を公開。
2014.12.28
「雪かきの体力科学」を公開。
2014.12.28
「融雪機の種類と安全な使い方」を公開。
2014.12.28
除雪コラム：第2回「除雪と腰痛」を公開。
2014.12.28
除雪コラム：第1回「雪かきと健康：安全対策」を公開。
2014.12.28
「動画で学ぼう除雪の知識」を公開。

TOPICS
除雪コラム
北海道の除雪事故
除雪で健康・体力づくり
除雪お役立ちサイト

MOVIE
ウインターライフ推進協議会
除雪に関する動画を公開しています。
動画はこちらをご覧ください。

車は雪が怖い
雪かきのコツ
雪かきのコツおしえます。

308 吹雪時の視認性に関する調査研究（継続）

■吹雪時の視認性評価技術の研究

【概要】

北海道大学との共同研究により、吹雪時の視認性を画像解析により数値化する技術を応用し、視認性指標値から吹雪による吹雪量、吹きだまり量を推定する技術についての研究を行った。

【今年度の事業概要】

○国土交通省建設技術開発助成制度に採用された「カメラ画像を利用した大雪および暴風雪による視程障害・吹きだまり検知に関する技術開発」の視程障害の検知に視認性評価技術を活用。

○「カメラ画像を利用した大雪および暴風雪による視程障害・吹きだまり検知に関する技術開発」の吹雪量（吹きだまり量）の推定への活用。

○調査研究成果を以下の関連学会等で発表した。

- CCTVカメラの画像を用いた吹雪量推定の可能性について（第31回寒地技術シンポジウム）
- Development of Snow Transport Estimation Models Based on Road Images (Transportation Research Board 95th Annual Meeting)

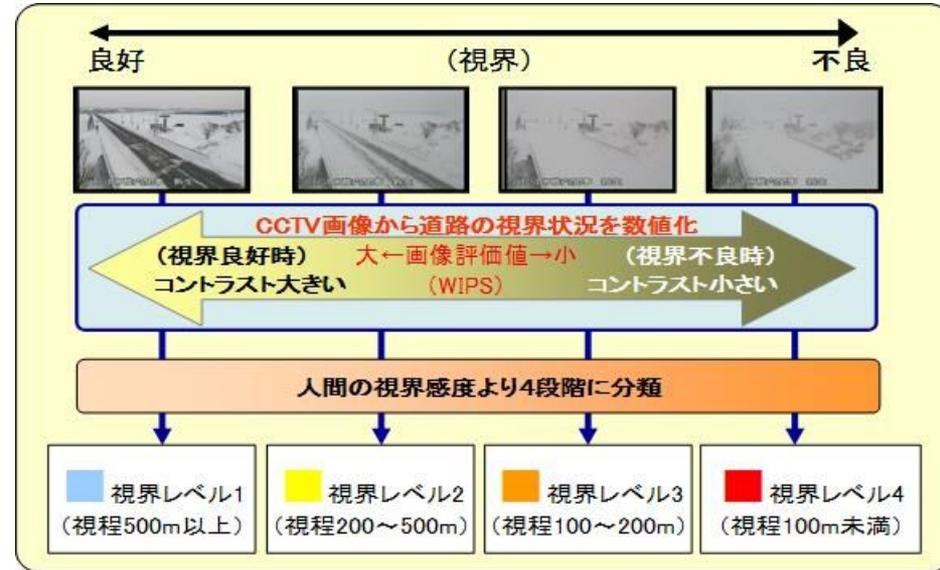


図1 視認性評価技術のイメージ

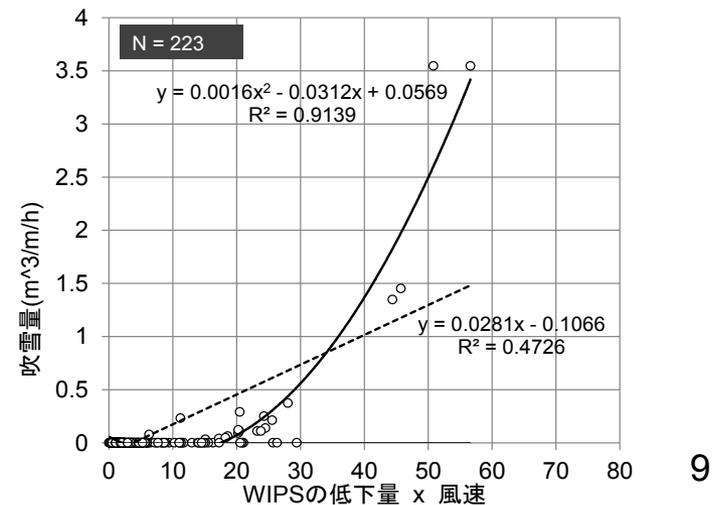


図2 画像評価値の低下量と風速の積と吹雪量の比較（春日テレメータ）

309 積雪寒冷地における道路緑化に関する調査研究（継続）

1. 緑化勉強会の開催

- ・ 開催日時：2015年6月26日（金）13：00-17：00
- ・ 場 所：環境林づくり研究所（美唄市）
- ・ テーマ：木の葉一形態・生態と利用

2. 現地調査の実施

- ・ 一般国道453号のトマツ倒伏要因調査
- ・ 上士幌町十勝三股地区の植生復元のモニタリング調査
- ・ 道道屈斜路摩周湖畔線の道路防雪林調査



図 トマツの倒伏状況

3. 研究発表

- ・ 雪氷研究大会（2015年・松本）にて「冬期における切土斜面樹木の倒伏要因に関する一考察」と題して口頭発表（2015.9.16）
- ・ 第14回日中冬期道路交通ワークショップにて「大平原における道路防雪林帯の創り方」と題して口頭発表（2015.7.20）
- ・ 第31回寒地技術シンポジウムにて「高標高地における裸地からの森づくりの手法について 十勝三股森づくり21の活動記録から」と題してポスター発表（2015.11.5）

4. 技術資料

- ・ 図説・土木技術者のための樹木学入門（斎藤新一郎著）の原稿作成



311 エコ・コリドールに関する調査研究（継続）

「野生生物と交通」ホームページの運用

野生生物と交通に関する様々な情報を広く提供するとともに、事故状況などの情報収集を行うため、ホームページを立ち上げ、運用している。

＜主な内容＞

- 野生生物との衝突事故防止に向けた情報発信（注意喚起、文献リスト など）
- 「野生生物と交通」研究発表会の案内
- 事故発生状況に関するアンケート
- 野生生物と交通に関する写真・動画募集



トップページ



「野生生物と交通」研究発表会のページ

ロードエコロジー研究会の活動

- 道央自動車道のオーバブリッジでのモニタリング調査の実施（8月～継続中）
- 環境アセスメント学会での特別集会「「野生生物と交通」の現状とその課題」の開催（9月4日）
- 「野生生物と社会」学会でのテーマセッション「「野生生物と交通」に関する話題—琉球列島の今を知る」の開催（11月21日）



オーバブリッジの現地確認



特別集会での発表プレゼン資料



テーマセッションでの会場の様子

312 エゾシカの被害対策検討に向けた調査研究（継続）

事例収集や他の研究機関等との共同研究を実施し、研究成果の発表を行う。また、平成26年度に作成した「エゾシカの被害と対策～農林業被害対策編～」の交通問題版の出版に向け、エコインフラやロードキル対策などのロードエコロジーに関連する対策事例を収集し、レポート化する。

鉄道総合研究所との共同研究の実施

■ 鉄道車両とシカの衝突事故対策ツールの検討を継続 （音によるシカの行動変化の調査研究）

シカの警戒声、ディアホイッスル、イヌの悲鳴の音を用い、列車から音を鳴らし、その際の反応、行動変化から対策ツールとしての音の活用可能性についての検討を継続する。

（平成27年11月、平成28年2月に現地調査を実施）



接近する列車の直線を横断するエゾシカの様子
（平成28年2月）

「野生生物と社会」学会でのテーマセッションの開催及び情報収集

- ・ 「野生生物と社会」学会への参加による情報収集
- ・ 開催場所：琉球大学（沖縄県）
- ・ 開催期間：2015年11月21日（土）～24日（火）

寒地技術シンポジウムでのポスター発表

- ・ エゾシカ用事故防止対策施設への積雪の影響を考える



テーマセッションでの討議の様子



ポスター発表資料

313 土木史に関する調査研究（継続）

1. 調査の実施

北海道の土木史や道路史に関わる調査を文献や現地での調査及び人物への聞き取り調査等を行うとともに、土木遺産や土木施設等の構造物を観光ツアーや教育等で活用する方策について調査を実施。

2. 研究発表

- 土木学会北海道支部年次技術研究発表会（平成28年1月30日（土）～1月31日（日）、北海道大学）において、社会インフラツアーにおける土木遺産の活用とその効果、について発表。

3. 土木史ツアーの実施

- 土木学会北海道支部と共同で一般市民を対象とした土木遺産ツアーを行った。参加者40名。
「空知の治水と橋の物語」
（4つの土木遺産と橋梁工事現場）
平成27年10月24日（土）催行。

主催：公益社団法人土木学会北海道支部
 協賛：公益社団法人日本建設業協会北海道支部 協力：北海道中央バス(株)
 出発日 日帰り XDB003 旅行代金(大人お1人様) 2,980円 (子供 500円引き)
 10/24(土) 限定1回
土木遺産ツアー 土木遺産シリーズ第6弾
 ～空知の治水と橋の物語～
 ■募集人員/40名 ■最少催行人員/20名
 ■添乗員/同行 ■食事/昼食1回
 ※特別にダム工事現場に入りますので、汚れても良い靴・雨具にてご参加ください。
 バスツアーのポイント！
 ＊南空知で選定された土木遺産「夕張川新水橋」「岡山橋」「舞鶴橋」そして「跡坑の炭鉱遺産」を巡り、治水と地域開発の歴史を振り返る旅です。
 ＊桂沢ダムの嵩上げに伴う橋梁新設工事現場を特別に見学します。
 ＊バスツアーには土木学会関係者が同行し、土木遺産について詳しく解説していただきます。
 ＊土木遺産カードのお持ち帰り付きです。

土木遺産ツアーチラシ



314 環境・エネルギーと社会資本整備に関する調査研究（継続）

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」による道内へのEV普及推進

【概要】

「北海道EV・PHV普及促進検討研究会」（会長：北大小川先生）による道内へのEV・PHV普及促進として、EV充電器の箇所数調べやインフラ整備補助金申請の広報等を行った。

北海道EV・PHV普及促進検討研究会

EV・PHVニュース

EV・PHVに関するイベント情報、お知らせを掲載します

HOME > EV・PHVニュース > EV・PHVニュース > 【2015/10/9更新】次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金「北海道ビジョン」のご案内

【2015/10/9更新】次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金「北海道ビジョン」のご案内

2015-10-09

【2015/10/9】ビジョンリストが更新されました。
【2015/3/2】平成26年度補正予算の「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」の申請受付が始まりました。（～平成27年12月28日）
【2014/12/10】「北海道における次世代自動車充電インフラ整備のビジョン」が変更されました。

経済産業省の平成26年度補正予算「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」※において、充電インフラ整備を加速し、電気自動車等の一層の普及促進と利便性向上を図るため、都道府県が策定することとなっている充電器設置のためのビジョンについて、北海道のビジョンとなる「北海道における次世代自動車充電インフラ整備のビジョン」の修正案が、平成25年8月21日付で、一般社団法人次世代自動車振興センターより承認されました。

最新のニュース

- 【2015/10/9更新】次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金「北海道ビジョン」のご案内
- 【2015/9/17更新】次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金「北海道ビジョン」のご案内
- 【2015/8/18更新】次世代自動車充電インフラ整備促進事業補助金「北海道ビジョン」のご案内
- 【お知らせ】「電気自動車による地域交通グリーン化事業の公募」について

▲インフラ整備促進事業（北海道ビジョン）の広報【研究会HP】

小売店 EV充電網着々

魅力アップへ セブン、イオンなど



イオン北海道が設置した電気自動車の充電ステーション。氷室下20度でも利用できる寒地対応。札幌市中央区のイオン札幌桑田店。

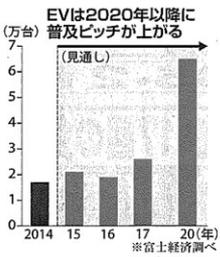
「買い物の間に」が売り

小売業界が電気自動車（EV）の充電網の整備を急いでいる。セブン&アイ・ホルディングス（日立）は来年9月までに、北海道を含む全国の店舗に充電器3400台を置く。イオングループなども店舗数を増やして対抗する。今後EVの普及が進むと各社は見込み、環境問題に敏感な顧客を取り込む。道内比べてEVの航続距離が短くなってしまう寒冷地。北海道で充電器が増えれば、EV普及の強い追い風となりそうだ。（東京報道 岡田圭夫、経済部 木村晃彦）

道内でもEV充電器の設置が進む

企業・グループ	設置台数	料金
セブン&アイ	来年2月までに全国3400台（うち道内130台）	1時間120円（普通）、30分450円（急速）
イオングループ	全国413台（うち道内24台）	無料（普通）、30分300円（急速）
ファミリーマート	全国680台（うち道内10台）	1分15円（急速）
北越ラッキー	道内17台	1分54円（急速）
アークスグループ	道内1台	1時間程度500円（急速）

※設置台数はことわらない限り9月末時点。「普通」は普通充電器、「急速」は急速充電器



道内では中堅スーパーの北越ラッキーやアークスグループが設置している。アークスは「EV普及を備え、店舗数を増やせ」とを掲げたい」と語った。調査会社の調査によれば、14年に1万7千台だった20年のEV販売台数は、20年に6万台以上まで増え急ぐ。14年に2万5千台だった充電器は、15年に1万5千台まで増える見通し。

日立と外資系電力が充電できる「プラグインハイブリッド車（PHEV）」の普及を必ずしも北海道道「PHV普及促進検討研究会」としては歓迎しない。道内の充電器設置場所は7月時点で約3割が所定と半端間で、約450台分と半端間で小売業者は全道に充電器を張り巡らす。都市部以外にも普及が広がるのきっかけになると期待する。

道内では中堅スーパーの北越ラッキーやアークスグループが設置している。アークスは「EV普及を備え、店舗数を増やせ」とを掲げたい」と語った。調査会社の調査によれば、14年に1万7千台だった20年のEV販売台数は、20年に6万台以上まで増え急ぐ。14年に2万5千台だった充電器は、15年に1万5千台まで増える見通し。

316 北海道の「地域ブランド力」を活かしたビジネスモデルの開発に関する調査研究（継続）

■北海道産ワインとチーズの国際ブランド確立による中国等への販路拡大と「北海道チーズ&ワイン街道」への観光客誘致による地域経済活性化プロジェクトへの参画

【概要】

- 地域団体及びシーニックバイウエイ支援センターが申請する「経済産業省：小規模事業者等 JAPAN ブランド育成・地域産業資源活用支援補助金（JAPAN ブランド育成支援事業：2年目）へ参画
- アジア圏の富裕層をターゲットに、北海道のイメージとともに希少価値の高い北海道産チーズ&ワインの市場拡大を目指した海外向け商品開発を行うとともに、インバウンドの拡大に向けた広報展開等を実践。

【今年度の事業概要】

- 戦略推進委員会の開催
 - ・第1回：11月30日、第2回3月25日
- メディア招聘による北海道産ワイン&チーズツーリズムのブランド化
 - ・1月24日-26日には、中国版ツイッター「weibo(ウェイボ)」にて、多くのフォロワーを抱え情報発信力強いメディア関係者を招聘し、北海道産ワイン&チーズツーリズム(モデルコース)を体験頂き、その体験内容をウェイボに掲載しPRを行った。
- 北海道産ワイン&チーズツーリズムの受け入れ環境整備
 - ・受け入れ窓口づくり
 - ・スムーズに旅行者を受入、商品を提案・販売に繋がるよう冊子を作成し、ウェブに掲載した。
 - ・宿泊施設と連携し、北海道産ワインとチーズが楽しめる環境づくりを行う。
 - ・受け入れ窓口として、旅行会社や旅行社からの相談や問い合わせ窓口などの一元的な情報管理やホームページによる発信の窓口づくりを行った。



中国人旅行者をターゲットとして、中国語(簡体字)でワイナリーやチーズ工房を紹介する冊子を制作



ウェイボーを活用した情報発信



中国語(簡体字)で、北海道のワイナリーやチーズ工房の特徴や基本情報、おすすめモデルコースなどを掲載するウェブサイトを作成
ウェブサイトに問合せフォーム等の窓口を設置し、窓口一元化を図った。

317 気候変動下における雪氷環境に関する調査研究（継続）

【概要】

近年の地球温暖化、異常気象等の気候変動が雪氷環境及び冬期道路交通や積雪寒冷地の社会生活等に与える影響について調査研究を実施。

【今年度の事業概要】

- 近年、暴風雪災害が多発している道東地域を対象として、簡易型のタイムラプスカメラを設置し、初冬期からの吹雪量と吹きだまり状況の確認、防雪効果の低減状況を把握するための観測を実施した。
- 日中冬期道路交通ワークショップで得た内蒙古自治区での吹雪対策技術を読み解き、日本における吹雪対策との比較、分析を行った。
- 調査研究成果を以下の関連学会等で発表した。

- 2014年度冬期の吹雪災害と防雪対策施設の状況（第14回日中冬期道路交通ワークショップ）
- 内蒙古自治区における吹雪対策について（第31回寒地技術シンポジウム）



図1 中標津町での吹きだまり状況の観測

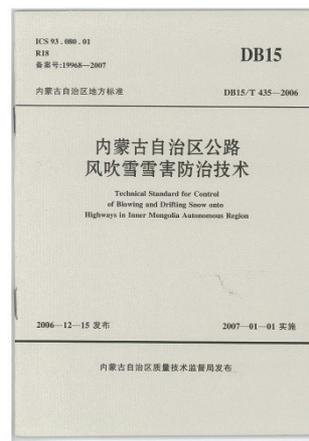


図2 内蒙古自治区での吹雪対策技術の分析

318 北海道の地域防災に関する調査研究

北海道のU-35（若手世代）限定 研修会・ワークショップ 「転機での決断」～あなたは多数派？ 少数派？～

<開催概要>

- 期日：2015年6月13日（土）14:00～17:00
- 場所：さっぽろ大通コワーキングスペース ドリノキ レクチャールーム
- 主催：技術士会 北海道本部 青年技術士交流委員会
- 参加者：若手技術士（士補）の皆さん 約20名
- 内容：今回の研修会は、働いているときに生じる『転機での決断』をテーマに、若手世代の方同士でディスカッション & 交流してもらう事を目的に青年技術士交流会が開催。調査研究部の中前研究員がワークショップのファシリテータを務め、防災教材クロスロードゲームという手法を用いて、若手同士の意見交換を実施。ワークショップ後に行った参加者アンケートでは、「自分とは違った視点での様々な意見があり、とても勉強になりました。」、「普段はあまり付き合いの無い人と率直な意見交換ができ、とても有意義な時間でした」等の意見が寄せられた。



開催案内リーフレット



研修会のファシリテートをしている様子



研修会の様子



研修会の様子



クロスロードゲームで使用した座布団

319 北海道新幹線開業に向けた2次交通及び周遊観光に関する調査研究(新規)

北海道新幹線の経済効果を全道に広く波及させるために、北海道新幹線とレンタカーを組み合わせた北海道観光の可能性や二次交通のあり方などについて調査研究を行った。具体的には、道央・道南のシーニックバイウェイ4ルート(支笏洞爺ニセコルート／函館・大沼・噴火湾ルート／札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート／どうなん・追分シーニックバイウェイルート)広域周遊促進の可能性を検証するとともに、地域資源の再発掘および周遊ルートなどについて検討を行った。さらに、それら資源をまとめた「シーニックバイウェイ道南・道央五十三次トランプ」の製作を行った。

①活動概要

●各ルート内における周遊促進に活用できそうな地域資源発掘調査

- 平成26年2月に支笏洞爺ニセコルート(支笏湖温泉)で行われた「道央・道南ブロック会議」4ルートの周遊促進ルートの検討結果等を参考に、各ルート内の周遊立ち寄り施設および景観ポイント、その他地域資源(お土産など)等地域資源の発掘調査を行った。”道南・道央五十三次”各ルート13か所の宿場町(みどころ等)を推薦。



●ルート周知・プロモーションツール(道南・道央五十三次トランプ)の作成

- 上記推薦より、広域周知促進・プロモーションツールとして道南・道央エリア及び当該地域における広域周遊促進に向けた「道南・道央五十三次トランプ」を作成。

【4ルート合同による検討会の開催】

●協賛企業の募集

- 沿道の景観を守り美しいドライブルートを創出するための活動資金として企業協賛を募集(協賛金額一口1,000円：応募無し)



②活動の体制

- 支笏洞爺ニセコルート
- 函館・大沼・噴火湾ルート
- 札幌シーニックバイウェイ
藻岩山麓・定山溪ルート
- どうなん・追分シーニックバイウェイルート



【トランプ実例：支笏洞爺ニセコルート】

320 学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究（新規）

(株)アドバコムとの共催により、こども環境情報誌エコチルにおいて、「みんなで考える公共交通アイデアコンテスト」を実施し、札幌市内の小学生から881作品の応募を得た。また、応募作品の選定は、札幌市や交通事業者で構成される審査会で行い、アイデアの内容により札幌市長賞・札幌市交通局賞 地下鉄部門/市電部門・ジェイ・アール北海道バス賞・じょうてつバス賞・北海道中央バス賞・JR北海道賞の7作品を選定し、各受賞者に対しては2月6日のさっぽろ雪まつり大通会場にて表彰を行った。

みんなで考える公共交通アイデアコンテスト

■ 目的

- ・公共交通に関心を持つ「きっかけ（動機付け）」づくり
- ・将来の乗務員へ

■ 実施内容

- ・エコチル紙面により、『公共交通アイデアコンテスト』を実施。
- ・札幌市長賞、札幌市交通局賞・市内バス事業者3社の賞・JR北海道賞などを選定。
 - ・各賞の受賞者を2月の“さっぽろ雪まつり”にて表彰。

■ 実施体制

- 主催：(株)アドバコムエコチル編集部
- 共催：(一社)北海道開発技術センター
- 後援：札幌市・札幌市教育委員会・札幌市PTA協議会・ジェイ・アール北海道バス(株)・(株)じょうてつ・北海道運輸局・北海道中央バス(株)

■ 応募数

- 881作品

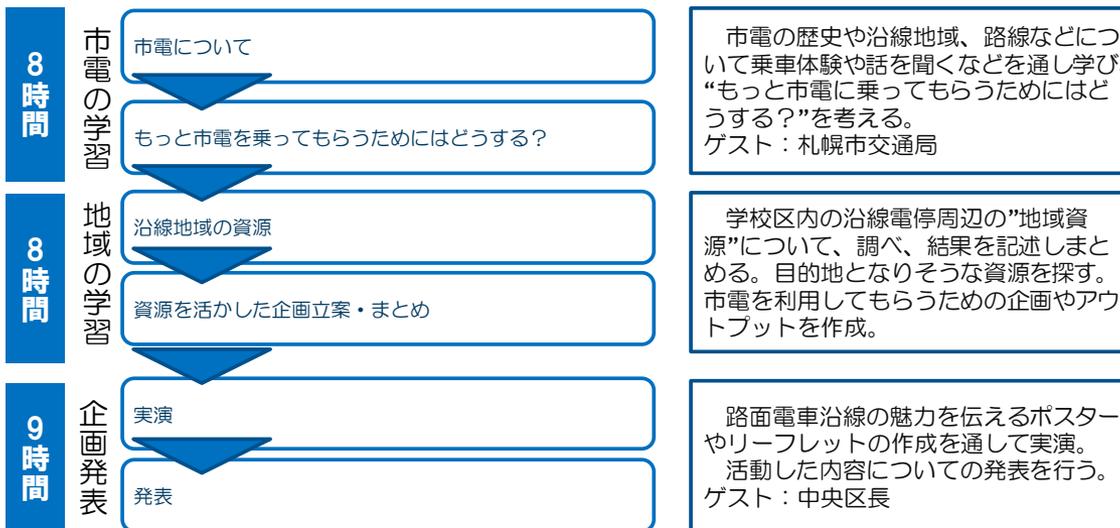


320 学校教育との連携による社会的ジレンマ問題の解消に関する調査研究（新規）

路面電車沿線活性化協議会との協働により、札幌市立資生館小学校において、路面電車を教材とした総合的な学習の時間の支援を実施した。

札幌市立資生館小学校における路面電車を教材とした総合的な学習の支援

■ 学習の実施概要



321 北海道の歴史・文化を活用したヘリテージツーリズムに関する調査研究（新規）

アイヌ文化勉強会の開催

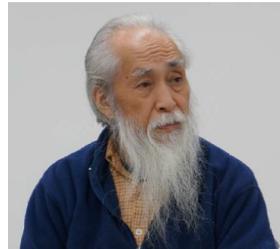
昨年度8月から3月まで月1回、藤村久和北海学園大学名誉教授を講師としてアイヌ文化勉強会（アイヌ文化を読む会）を開催していたが、今年度は自主事業として継続し、平成28年年3月で20回を数える。また、平成27年8月からアイヌ語地名についても文化の勉強会とは別に月に1度実施している。

両勉強会共、藤村氏が主催するアイヌ語地名研究会と共同で実施している。一般人を含み、毎回20~25名が参加しており、現在までの参加登録者数は50名を超えている。

勉強会は、ジョン・バチエラーの著書をテキストとし、その内容に藤村氏がコメントするかたちで進められている。今年度各回の具体的内容は以下のとおりである。

- 4/7 アイヌの占い、まじない 5/12 女性と刺青
 6/2 アイヌの口承文芸
 7/7 アイヌの衣類（アットウシなど）
 8/4 アイヌの家庭 9/1 アイヌ社会のリーダーシップ
 10/6 アイヌのしかけ罫、家の構造 11/10 アイヌの婚姻制度
 12/1 アイヌの食材 1/5 育児法 2/2 礼儀作法 3/1 狩猟採取

アイヌ語地名勉強会では、松浦武四郎日誌を元に書かれた山田秀三氏の「札幌のアイヌ語地名を尋ねて」を使って地形を参照しながらアイヌ語地名を学んでいる。来年度は地形とアイヌ語地名の対応度を現地で検証予定。



藤村久和氏(写真 左)

北海学園大学名誉教授。北海道を代表するアイヌ文化研究者の一人。

主な著書：『アイヌの霊の世界』（小学館、1982年）、『アイヌ、神々と生きる人々』（福武書店、1985年）『アイヌ学の夜明け』（梅原猛との共編、小学館、1990年）等。

勉強会の様子(下)



観光庁事業のため
 藤村氏監修により日
 繁、英仏、簡韓の3種
 類6カ国語で製作した
 アイヌ文化について
 のパンフレット表紙
 (右)



4 2 1 寒地開発技術に関する情報・資料の収集整理（継続）

○雪氷学会、雪工学会、寒地技術シンポジウム、土木計画学研究委員会その他、米国運輸調査委員会等、国内外の会議や各種研究機関等との交流を通じ、寒地技術や交通・地域政策に関する技術情報を収集整理

これまでに、日本雪氷学会と日本雪工学会が主催する雪氷研究大会(2015・松本)に参加し、論文発表を行う共に、各種研究機関等との交流を行い、寒地技術に関する情報交換を行った。また、11月に開催される寒地技術シンポジウムにおいても、各種論文発表及び技術交流を行った。

雪氷研究大会(日本雪氷学会、日本雪工学会)

期間:2015年9月13日(日)～16日(水)

場所:信州大学

発表論文:

- ・防雪柵の吹きだまりの発達過程と吹雪捕捉率(金田安弘)
- ・高齢者の日常的な活動と冬期歩行に対する自己効力感
(大川戸貴浩、富田真未、金田安弘)
- ・転倒による救急搬送集中日の特徴分析
(永田泰浩、金田安弘)
- ・冬期における切土斜面樹木の倒伏要因に関する一考察
(阿部正明)
- ・除排雪民具に関する所蔵分布調査(小西信義)

寒地技術シンポジウム

期間:2015年11月4日(水)～11月6(金)

場所:札幌コンベンションセンター

発表論文:

- ・エゾシカ用事故防止対策施設への積雪の影響を考える
(野呂美紗子、鹿野たか嶺、佐藤真人)
- ・高齢者の雪道での転倒不安に関する調査
(大川戸貴浩、富田真未)
- ・高標高地における裸地からの森づくりの手法について
(斎藤新一郎)
- ・除雪ボランティア検証(中前千佳)
- ・内蒙古自治区における吹雪対策について(永田泰浩)
- ・CSR事業における雪かきボランティア活動の特長と今後必要な方策(小西信義)

※著者名はdec関係者のみ記載

4.2.2 技術資料等のデータベース化に関する調査研究（継続）

1. decサーバーを活用し、収集資料のデータベース化

寒地技術や道路事業に関する資料を収集し、随時、decサーバー内でデータベース化を行っている。

■主な資料

- ・ 論文集（寒地技術シンポジウム、日中冬期道路ワークショップ等）
- ・ 写真資料

The screenshot shows a web browser window displaying a search results page for 'Wildlife and Transportation Research'. The page title is '野生生物と交通研究' and it shows '2002年第1回〜'. The search results are displayed in a table with columns for '年度' (Year), '表紙' (Cover), '目次' (Table of Contents), '論文名' (Paper Title), '著者1' (Author 1), '所属1' (Affiliation 1), '著者2' (Author 2), '所属2' (Affiliation 2), '著者3' (Author 3), '所属3' (Affiliation 3), '著者4' (Author 4), '所属4' (Affiliation 4), and '著者5以降' (Author 5 and beyond). The table contains several entries, including titles like '昆虫の交通事故に関する基礎的研究ー道路周辺環境と拾得された昆虫相についてー' and 'シマフクロウ(Katuna blakistoni)の交通事故ー野生動物区守的考察ー'.

年度	表紙	目次	論文名	著者1	所属1	著者2	所属2	著者3	所属3	著者4	所属4	著者5以降
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会												
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			昆虫の交通事故に関する基礎的研究ー道路周辺環境と拾得された昆虫相についてー	山田賢吾	(株)ドーコン	石塚正仁	(株)ドーコン	橋井啓文	(株)ドーコン	内山勇俊	(株)ドーコン	原内裕
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			キタサンショウウオの生息地保全に向けての試み	水田成一	北海道開発局 建設部 道路建設事務所 第一工事課	廣野典雄	北海道開発局 建設部 道路建設事務所 第一工事課	橋山昭紀	北海道開発局 建設部 道路建設事務所 第一工事課			
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			鳥類の飛行ルートを追跡するセオドライトによる猛禽類の飛行軌跡の調査	森田希夫	(財)日本気象協会 北海道支社							
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			シマフクロウ(Katuna blakistoni)の交通事故ー野生動物区守的考察ー	西條博樹	(財)北海道野生動物保護公社							
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			積雪寒冷地における国立公園内の道路法面緑化試験	村野正明	(社)北海道開発技術センター	小村仁	建設部建設設計部建設課建設事業科	孫田敏	(株)アークス			
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			国立公園内の道路環境整備に向けてー「自生樹木」の導入ー	眞田周二	北海道開発局 旭川開発建設部 建設第一課	海野勇治	北海道開発局 旭川開発建設部 建設第一課					
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			郷土種を中心とした“森の道づくり”についてー釧路道5号小樽橋南道路緑化計画ー	村野正明	北海道開発局 小樽開発建設部 建設第一課	生田健二	北海道開発局 小樽開発建設部 建設第一課	奥野正範	北海道開発局 小樽開発建設部 建設第一課			
2002年 第1回野生生物と交通研究発表会			函館新道における緑化への取り組みー自然とまちと緑のネットワークづくりー	堀口弘輝	北海道開発局 函館開発建設部 建設第一課	高野昭行	北海道開発局 函館開発建設部 建設第一課	津辺まさむ	北海道開発局 函館開発建設部			

データベース画面 (野生生物と交通)

4 2 3 寒地開発技術委員会（継続）

1. 寒地開発技術委員会道路設計幹事会ワーキンググループの開催

寒冷地の道路事業に関わる設計基準等の検討のため、道路設計幹事会の下部組織ワーキンググループを開催した。

2. 開催概要

- ・ 道路ワーキング（第1回：H27年9月2日（水）、第2回：H27年11月11日（水））
- ・ 橋梁ワーキング（第1回：H27年9月2日（水）、第2回：H27年10月28日（水））
- ・ トンネルワーキング（第1回：H27年8月31日（月）、第2回：H27年11月10日（火））
- ・ 電気ワーキング（第1回：H27年8月31日（月）、第2回：H27年11月12日（木））



橋梁ワーキング



道路ワーキング

424 インターンシップ制度

筑波大学筑波大学 大学院及び岩手大学農学部からのインターン受け入れ

- ・ シーニックバイウェイ北海道など地域協働による景観・地域・観光振興について学ぶことを目的に、筑波大学及び岩手大学農学部から各1名のインターンシップの受け入れを行った。
- ・ インターンシップでは、シーニックバイウェイに関わる開発建設部業務や各ルートにおけるワークショップに参加し、各開催概要などを整理するとともに、ルート代表や関係者へのヒアリングを実施し、シーニックバイウェイへの思いなどを把握した。

平成27年9月7日～17日

●研修生

筑波大学 大学院 システム情報工学研究科

社会工学専攻 都市交通研究室 柳澤直哉

平成27年11月3日～12月11日

●研修生

岩手大学農学部

共生環境課程3年 地本 真菜哉



図 留萌開建 協働インフラ会議(羽幌)の参加のようす



図 天塩川流域ミュージアムパークウェイワークショップ(中川)への参加のようす

425 沿道の環境を守り、活用する団体への支援事業(継続)

シーニックバイウェイ北海道の参加団体を対象に、活動団体が実施する沿道の環境を守り、活用する事業に関する支援事業を継続する。特に、参加団体の連携事業に重点を置いて調査研究事業を支援するほか、活動団体の研修派遣事業を行う。また、webやドライブ情報紙を活用した地域情報の提供も継続して行う。

■情報誌 ScenicByway製作・発行

- シーニックバイウェイ北海道の指定・候補14ルートへの来訪を促すドライブ観光総合情報紙として、「地元おすすめのドライブルート」「滞在・体験メニュー」「旬の食事」「旅の思い出になるお土産」等の地域情報を発信。

【今年度の事業概要】

- vol.15夏-秋号「ドライブ&朝」：平成27年 7月発行
- vol.16冬-春号「ドライブ&音」：平成27年12月発行

■発行回数：年2回発行（夏秋号・冬春号）

■発行部数：各11万部

■仕様：A5サイズ×40P

- 【発行】北海道ドライブ観光コンソーシアム
- 【編集・制作】シーニックバイウェイ編集・制作実行委員会
- 【協力】一般社団法人 北海道開発技術センター
一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター
- 【編集協力】シーニックバイウェイ北海道14ルート



vol.15夏-秋号 ドライブ



vol.16冬-春号 ドライブ



<読者層>

・30～60代のドライブ観光客(道内・道外)

<配布先>

◆道内:道の駅、道内主要レンタカー営業所窓口、高速道路サービスエリア、北洋銀行・北海道銀行本店・全支店、東日本フェリー道内営業所窓口、観光案内所、ガソリンスタンド、ホテル、商業施設等

◆道外:道南自動車フェリー、商船三井など、北海道と本州を結ぶフェリー船内・道外営業所、エアウ羽田空港支店、成田空港、どさんこプラザ(有楽町)などの北海道アンテナショップなど

461 寒地技術シンポジウムの開催（実施報告）

第31回 寒地技術シンポジウム

＜開催概要＞

- 期日：平成27年11月4日(水)・5日(木)・6日(金)
- 場所：札幌市教育文化会館（札幌市中央区北1条西13丁目）
- 内容：開会式、口頭発表（11分科会）、ポスター発表、展示
- 論文発表：76編
（査読論文24編、報告論文52編＜口頭発表66編、ポスター発表10編＞）
- 技術展示：2団体17テーマ
- 参加人数：350名
- 発行物：寒地技術論文報告集vol.31（CD-ROM）、寒地技術論文概要集（A4冊子）

◎ 講演・事例紹介による「積雪寒冷地における防災のあり方」（11/4開会式内）

第一部 特別講演

「北海道における防災・減災への的確な対応を考える」

講師：加賀屋 誠一 氏（北海道大学名誉教授）

第二部 事例報告

(1) 「寒冷地に適した避難所計画の必要性～厳冬期災害演習を踏まえて～」

講師：根本 昌宏 氏（日本赤十字北海道看護大学教授）

(2) 「道東地域の防災ワークショップの役割」（仮題）

講師：金子 ゆかり 氏（有限会社金子設計事務所 専務取締役、
（一社）北海道建築士会釧路支部 女性委員長）



ウェブサイト



開催案内



論文概要集



論文集CD-ROM



特別講演
加賀屋 誠一 氏



事例報告
根本 昌宏 氏



事例報告
金子 ゆかり 氏



分科会発表



ポスター発表

462 「野生生物と交通」研究発表会

(15回大会記念：IWMC2015での記念シンポジウムとして開催)

「野生生物と交通」研究発表会 15周年記念国際事業

野生生物と交通：エコインフラと道路の安全性に関する国際シンポジウム



今年度は「野生生物と交通」研究会15周年記念として、第5回国際野生動物管理学会学術会議内において国際シンポジウムを開催した。

国内外からの招聘者を含む有識者・研究者にご講演いただき、エコインフラのあるべき方向性や具体的な政策実施時における留意点などについて理解を深めた。

また、道東自動車道および帯広尾自動車道の動物対策施設の視察を行った。

シンポジウムの様子を取りまとめた開催報告集を作成した。

＜シンポジウム開催概要＞

- ・ 期 日：2015年7月28日（火）15:40～18:10
- ・ 場 所：札幌コンベンションセンター 小ホール
（第5回国際野生動物管理学会学術会議内）
- ・ 共 催：アニマルパスウェイ研究会、株式会社構研エンジニアリング
- ・ 参加費：8,000円 *dec会員：無料（先着30名）、国際学会参加者は無料
- ・ 同時通訳付き（日英）



開催報告集の作成



シンポジウム会場



招聘者の講演



帯広尾自動車道視察の様子

463 地域政策研究セミナー等の開催(継続)

「北海道における小水力発電の現状と今後の展開」

「小水力発電」をテーマに、その仕組み、北海道や全国の現状や動向、北海道での展開可能性などについて、有識者を招いた講演会を開催しました。

日時:平成27年7月10日(金曜日) 参加者:約80名
プログラム

話題提供1「小水力発電の仕組みと、全国的な動向」

須田 日出男

(システム工学研究所株式会社技術顧問・NPO法人社会工学研究所理事長)

話題提供2「北海道における小水力発電の現状」

武田 政文 (北海道企業局発電課主幹)

話題提供3「国営かんがい排水事業での小水力の取り組み(事例紹介)」

高橋 雅一(北海道開発局農業整備課課長補佐)

「地方公共交通活性化セミナーin弘前」の開催

日本モビリティ・マネジメント会議で蓄積されてきた国内外の公共交通活性化の技術的・具体的な知見を活かし、地方における公共交通の活性化に向けた方途を検討することを目的に、表記セミナーを弘前市を開催した。

主催:弘前市、(一社)北海道開発技術センター、(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

とき:平成27年10月27日(火曜日)

ところ:弘前商工会議所大会議室 参加者:60名

【基調講演】

「公共交通におけるマネジメントの必要性～MMの基本的な考え方と総合的な戦略の必要性～」

藤井 聡氏((一社)モビリティ・マネジメント会議代表理事・京都大学教授)

【パネルディスカッション】

大谷 厚朗氏(一畑電気鉄道(株)代表取締役会長)

澤田 長二郎氏(津軽鉄道(株)代表取締役社長)

高瀬 英人氏(津軽鉄道サポーターズクラブ会長)

菊池 信雄氏(弘南鉄道(株)代表取締役専務)

生田 康征氏(弘南バス(株)取締役乗合部長)

藤井 聡氏((一社)日本モビリティ・マネジメント会議代表理事・京都大学教授)



日本モビリティ・マネジメント会議 JCOMM

地方公共交通活性化セミナー in 弘前

参加費 無料

地方公共交通活性化セミナー

10年にわたり日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)の中で蓄積されてきた国内外の公共交通活性化の技術的・具体的な知見を活かしながら、公共交通再生の現場で活躍されている方々との議論を通じて、地方部、特に弘前圏における公共交通の活性化に向けた方策を考えたいセミナーを開催します。

2015.10/27 (Tue)
13:30~16:30

弘前商工会議所 2階大ホール
(弘前市上鞆町18-1)

- ・弘南鉄道中央弘前駅徒歩10分
- ・JR弘前駅からバスで10分

※JCOMMは「公共交通活性化の実践的手法として普及・進化したモビリティ・マネジメント(MM)の実績や学術的実証事例等の共有・情報交換・研鑽の場」の会議。年に1回の開催。全国から自治体交通事業者・自治体幹部等の参加・参加者多数。

※モビリティ・マネジメント(MM)は「社会や社会生活などの学術的知見を基盤とし、人々にコミュニケーションを働きかけ、交通行動の自発的な変化を促す交通施策」。

【主催】(一社)日本モビリティ・マネジメント会議、弘前市、(一社)北海道開発技術センター
【協賛】(一社)大谷厚朗、つづこみんあ交通コンソーシアム(一社)交通まちづくり事務局、(一社)T.Mobility、特定非営利活動法人まちろびデザイン【後援】国土交通省東北運輸局、青森県

451 調査研究成果などの紹介及び普及（継続）

dec monthly [A4/8p 2/2 c] 年12回発行

発行月	表紙	1P	2P	3P	4P	5P	6P	うら表紙
		インタビュー (2P)	dec主催事業の報告 (2P変動あり)	自主研究の紹介 (2P変動あり)	関連団体の催し物の開催報告		お知らせ等	
4月	No.355 野生生物	日本大学理工学部システム工 学科准教授 伊東英幸氏	野生生物と交通開催報告	野生生物と社会開催報告	しまなみ海道視察報告 (前編)		エゾシカの被害と対策～農林業被害対 策編～出版のご案内、第15回「野生生 物と交通」研究発表会のご案内	
5月	No.356	みやけりかこ氏	しまなみ海道視察報告 (後編)	小西さん論文紹介		DEC総会のご案内、第15回 野生生物と 社会研究発表会のご案内 (7月28日 開 催)		
6月	No.357	NPO法人日本のうらほろ 近 江正隆氏	平成26年度 Dec総会開催報告		第15回 野生生物と社会研究発表会のご 案内 (7月28日 開催)			
7月	No.358 雪氷	日本赤十字北海道看護大学 根本 昌宏氏	2015年度雪氷学会北海道支部研究発表会		BDP研究会開催報告		CTCのご案内	
8月	No.359 シーニック	恵庭市長 原田 裕氏	SBW10周年記念フォーラム開催報告		CTCのご案内			
9月	No.360 交通	北海道 神宮 吉田宮司	JCOMM開催報告		Dec自主研究審査会		局長&部長賞受賞・CTC	
10月	No.361 野生生物	シュレキ氏	第15回 野生生物と社会研究発表会 開催報告		フットパス [前半] CTCのご案内			
11月	No.362 雪氷	クロスホテル 南部氏	雪氷研究大会 (9月13～16日 開催)		地域政策セミナー		フットパス [後半]、お知らせ	
12月	No.363 シーニック	株 式 会 社 小笠原 航 氏	日本福祉のまちづくり学会全国大会開催報告		シーニックバイ ウェイ チカホ 開催報告	欧州視察報告 Vol.01	ISCORD2016、雪はねボランティアツ アー開催のご案内	
1月 (4P 構成)	No.364	佐藤会長挨拶 「土曜の日」記念講演会					「土曜の日」記念講演会授賞式	
2月	No.365 CTC	中越防災安全推進機構 事務局長 諸橋 和行氏	CTC開催報告		欧州視察報告 Vol.02			
3月	No.366	彫 刻 奥山 三彩さん 家	バス利用促進セミナーin釧路		風景街道大学開催報告		ウィンターサーカス開催報告、公共交 通アイデアコンテスト開催報告	
4月	No.367 野生生物	北海道中央葡萄酒株式会社 (千歳ワイナリー) 三澤 計史氏	雪はねボランティアツアー開催報告		野生生物と社会		お知らせ	



471 第14回日中冬期道路交通ワークショップの開催（継続）

第14回日中冬期道路交通ワークショップ

■開催日/平成27年7月20日（月）～22日（水）*21日（火）午後～22日（水）はエクスカージョン

■開催地/中国、内蒙古自治区シリンホト市 ■エクスカージョン/省道303号線、寒冷地道路保全視察

■参加者数/97名（内、日本側参加者21名）

■発表件数/20件（内、日本側発表件数9件）

【主催】 内蒙古交通設計研究員有限責任公司

シリンホト乾園交通設計有限責任公司

- ・第14回となる日中冬期道路交通ワークショップは内蒙古自治区シリンホト市にて実施。中国側は内蒙古自治区のほか、遼寧、吉林、新疆、山東の各省から参加があった。
- ・エクスカージョンでは、内蒙古の大草原を走る省道を見学したが、森林らしきものは見当たらず、吹きさらし状態であり、冬期の道路管理の厳しさが察せられた。内蒙古では塩分を含んだ凍土地帯が多く、道路に敷設するコンクリートへの塩分や凍結融解の影響が深刻だとのことである。

